

女性の未来を拓く場所



武庫川女子大学
キャリアセンター センター長
共通教育部 教授
内田正博

1 武庫川女子大学について

全国的にはあまり知られていないが、本学は、学生数からみて日本最大の女子大学である。

学部は文学部（日本語日本文学科、英語文化学科、教育学科、心理・社会福祉学科）、健康・スポーツ科学部（健康・スポーツ科学科）、生活環境学部（生活環境学科、食物栄養学科、情報メディア学科、建築学科）、音楽学部（演奏学科、応用音楽学科）、薬学部（薬学科、健康生命薬科学科）、看護学部（看護学科）の6学部14学科、さらに短大は、日本語文化学科、英語キャリア・コミュニケーション学科、幼児教育学科、心理・人間関係学科、健康・スポーツ学科、食生活学科、生活造形学科の7学科を擁し、2015年で学部在籍数は8,455人、短大は1,665人、また6研究科の大学院もあり、学生数は合計1万名を優に超える。

前述の大学のほかに、附属の中学校・高等学校および幼稚園・保育園、さらにアメリカ分校、東京センターほかを抱える総合女子教育機関である。

1939年、公江喜市郎（こうえきいちろう）によって創設された武庫川学院は、爾来、社会の各分野で活躍する有為な人材を輩出し、卒業生の総数は18万人以上。関西有数の女子大として知られ、武庫女（むくうにょ）の愛称で親しまれている。

2 キャリアセンターと各学科

キャリアセンター「学問を究め、女

性の未来を拓く」資格と就職に強い大学」にみられるように、武庫川女子大学は資格系の学部・学科が比較的多い女子大である。それらの学科は資格取得が即卒業後の進路につながるから、学科の教育課程そのものが職業教育の性格を併せ持つが、他方、全学生が参加する春の体育祭、秋の文化祭、丹嶺学苑における宿泊研修を実施するなど「全人教育」を推進している。

そんな中であって、主として一般企業や公務員志望の学生への就職支援を担うキャリアセンターは、全学の就職支援状況を俯瞰し、大学および短大の全学生の進路状況を報告する役割を担うとともに、各学科と連携を図り、できる範囲でキャリア・就職支援を行っている。

そうした連携を可能にしているのが、キャリアセンターの委員会組織である。4名の教員とキャリア支援課長からなるキャリアセンター常任委員会および、常任委員メンバーに各学科選出の委員を加えたキャリア対策委員会があり、各々毎月1回委員会を開催し、キャリアセンターからの情報提供と各学科からの状況報告など、全学の就職状況および就職支援に関する情報共有の場を設けている。

また、特筆すべきは、担当学科を割り当てられたキャリアセンターのキャリア支援課職員が、各学科担当教員と連携しながら必要に応じて支援し、とくに年度末近くになれば、職員が担当

学科の未内定の学生への求人情報の提供や就職相談を働きかけ、大規模大学でありながらも、きめ細やかな個別指導を行っていることである。そうした積極的な個別支援が功を奏し、武庫川女子大学の2014年度の就職率は大学98.8%、短大は99.1%の好成績を残している。

3 キャリアセンター、リニューアル!

2015年11月27日に移転・リニューアルしたキャリアセンターは、12月19日には約200名の出席者を得てオープニング・セレモニーを盛大に挙行了した。

当初は豪華な設備に驚嘆するばかりだったが、その中に込めた学院の出口教育強化への熱い思いを背に、キャリアセンターは大きく変身しようとしている。

まずはスタッフの笑顔と挨拶の徹底。そして、オープニングほかのイベントの司会を1、2年生が担当したように、内定者の活用を含めて、学生の活躍を推進する。さらに、学生の自立と「主体性・論理性・実行力」(教育推進宣言)を涵養しつつ、共通教育のキャリア関連科目と連携し、下級生へのキャリア意識の覚醒を図る。さらに、学生が社会との接点を意識するよう企業人や社会人との交流の場を設けるなど(上・左写真)、女性の未来を拓く場所として、新しい器に相応しいキャリア支援の新しいカタチへの取り組みや模索を始めたところである。